

宮崎県高等学校体育連盟ウエトリフティング競技専門部

《 新型コロナウイルス感染拡大防止対策ガイドライン 》

2021. 4. 26 改訂

大会開催の判断について

- ① 宮崎県高等学校体育連盟より「中止要請」があった場合は開催を中止する。
- ② 全県的に感染が拡大し、市町村を跨ぐ移動が制限される状態になった場合、主催団体と主管団体が協議し中止する。
- ③ 概ね1ヶ月前には開催の可否を決定する。ただし、開催可としても直前の状況等考慮して中止する場合もある。開催する場合は特別ルールや感染防止対策について参加者へ再度周知する。

事前周知（対象：選手、役員、補助員、応援、視察等）

- ① 参加者は、特別な状況下にあることを理解し、申込みにおいて特別ルールや運営が通常と異なることを承諾したものと参加する。
- ② 健康調査書を記入し持参する。体調不良者は入場をお断りする。
- ③ 場内等では、三つの密を避け、マスク等を着用し感染防止に努める。
- ④ 関係者以外は入場規制する。
- ⑤ 選手は自分の試合時間に合わせアップ場入りする。
- ⑥ 会場にゴミ箱は設置しない。持ち込んだものは各自がゴミ袋等を用意し持ち帰りする。
- ⑦ 手洗いに使うマイタオル持参を呼びかける。
- ⑧ 大会期間中及び大会7日前は不要な外出を避け、健康管理に留意する。

諸会議（ソーシャルディスタンス・マスク着用・手指消毒の徹底）

- ① 参加者は事前に登録し、受付で確認後、健康観察（検温等）をしてから入場する。
- ② 監督会議は、各校1名のみ参加とする。
- ③ 感染拡大防止対策について、周知徹底する。

受付（大会）

- ① 会場入口に受付ブースを設ける。
- ② 係員は、マスク・手袋等を着用する。
- ③ 関係者（選手、監督セコンド、競技役員、競技補助員、報道）以外の入場を制限する。
- ④ 健康調査書に健康状態及び連絡先を確認する。
- ⑤ 検温を実施し、発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないよう呼びかける。（37.5℃以上の者は入場を制限する）
- ⑥ 入口で全員手指消毒を行いマスク着用で入場する。

選手控え所（設置可能な場合）

- ① 選手及び監督セコンドのみ指定された間隔で利用し長時間の利用は控える。それ以外の者は、休憩や食事場所として利用しない。
- ② 常に換気を行い、選手同士の会話は控える。
- ③ 利用後は使用した箇所の消毒を行い、ゴミは全て持ち帰る。

検量

- ① 事前に配布された試技票に、監督サインも含めた必要事項を記入して持参する。検量時は記載された体重を目視で確認し、係がチェックを入れる。（特別ルール）
- ② 検量待ちの選手の間隔を適切に保つよう、表示をする。
- ③ 係員は最少人数で対応する。（審判2名が計量、審判1名検量リスト、TC1名試技票）
- ④ 選手ごとに計量器の消毒を行う。
- ⑤ 室内の換気を常に行う。

アップ場及び会場

- ① セコンドは1選手1名までとし、1名増すごとに1名追加とする。（特別ルール）
- ② 選手以外はマスクを着用する。
- ③ 椅子は選手数のみ設置する。
- ④ リング移動は極力避け、なるべく同じシャフト、プレートを利用する。

- ⑤ 大きな声で指示を出さない。
- ⑥ 炭マグは、小分けにして使用する。(特別ルール) 使用後は持ち帰り廃棄する。
- ⑦ バーごとに消毒シートを用意し、常に消毒できるようにしておく。
- ⑧ 持ち込んだものは全て持ち帰る。
- ⑨ 混雑を避けるため、入退場を必要に応じて行いアップ場での休憩は控える。

招集所

- ① 椅子は適切な距離を保ち配置し、移動しない。
- ② 重量変更は、変更用紙に記入して申告する。筆記用具は持参する。(予備は用意する)
- ③ 大きな声で指示を出さない。声援は控える。
- ④ 炭マグ容器は設置せず、各自配布されたものを使用する。(特別ルール)
- ⑤ 飲み物容器やテーピング等、使用したものは各自持ち帰る。(事前にゴミ袋の用意)

試合場

- ① 選手のマスクの使用を認める。(特別ルール)
- ② 器具係は、マスク・手袋を着用する。(特別ルール)
- ③ 試技ごとにバーを消毒シートで拭く。
- ④ レフリーは、フェイスシールドを着用する。
- ⑤ ジュリーは、席の間隔を広く設定し、フェイスシールドを着用する。
- ⑥ グループ終了ごとに、審判席、使用機器の消毒を行う。
- ⑦ 審判席への飲み物の提供は行わない。

会場

- ① 換気を常に行うため、窓やドアの開閉を工夫する。(特別ルール)
- ② 観客席1階は椅子を適切な距離を保ち設置し移動しない。
- ③ 応援は拍手等で行い、声援は行わない。
- ④ ゴミは各自で持ち帰る。
- ⑤ カメラ席は、設置しない。カメラや三脚の常設は禁止する。
- ⑥ インタビューコーナーは、選手との距離を2m以上離して設営する。報道関係者はマスクを着用する。

式典

- ① 開会式及び閉会式は簡略化する。状況によっては実施しない。
- ② 階級ごとの表彰は表彰台の間隔を広く設定する。状況によっては実施しない。
- ③ 授与者・介添えはフェイスシールドを着用する。
- ④ 入賞者のマスク等の着用は任意とする。

役員・補助員

- ① 場内では、マスク(フェイスシールド等含む)を着用する。
- ② 物品の受け渡しを伴う係は手袋を着用する。
- ③ 大きな声は出さず、広い場所での指示は場内放送及び拡声器等を使用する。
- ④ 最初に会場入りする際は、受付で健康調査書を提出し検温して係の指示に従う。2日目以降は、受付名簿で確認し、検温してから係の指示に従う。
- ⑤ 互いに適切な距離を保ち、三つの密を避ける。
- ⑥ 通常の大会とは異なる状況であること理解し、参加者の模範となる行動を心がける。
- ⑦ 健康管理に留意する。
- ⑧ 会場内を巡回し、感染防止対策が実施されているか点検し指導する。(係員、巡回場所・時間を決めて対応する)

主催者の準備

- ① 感染防止のため実行すべき事項を予め整理し、チェック化したものを適切な場所に掲示する。
- ② 実施事項のチェックリストを作成し、遵守されているか場内を定期的に巡回し確認する。
- ③ 万が一感染が発生した場合に備え、入場者の健康調査書を回収し名簿を作成・保管する。
- ④ 大会終了後に参加者から新型コロナウイルス感染症の発症が報告された場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対策方針について、開催地の自治体と予め検討しておく。
- ⑤ 参加者に対し、感染防止対策について要項等で事前通知する。
- ⑥ 以下の準備を行う。

(ア) 手洗い場所

- ・手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する。
- ・「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
- ・参加者にマイタオルの持参を求める。状況によっては使い捨てのペーパータオルを用意する。（共有のタオルや手指を乾燥させる設備については設置しない）
- ・手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する。

(イ) 更衣室、休憩・待機スペース

- ・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける。
- ・ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する措置を講じる。
- ・室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒する
- ・換気扇がある場所では常に使用、換気用の小窓をあける等の換気に配慮する。
- ・スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする。

(ウ) 洗面所

- ・トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する
- ・トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- ・手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する。
- ・「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
- ・参加者にマイタオルの持参を求める。状況によっては使い捨てのペーパータオルを用意する。（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする）

(エ) 観客席の管理

- ・入場者同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ席の数を減らすなどの対応をとる。
- ・声援を送らないことや大きな声の会話を控えさせる。
- ・会話をする場合には、マスクを着用すること等の留意事項を周知する。

(カ) 競技会場

- ・換気の悪い密閉空間とならないよう、競技に影響のないドアや窓を開放し十分な換気を行う。
- ・換気設備を適切に運転する。
- ・定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行う。

(キ) ゴミの廃棄

- ・鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り持ち帰りを原則とする。場内清掃にあたる人は、マスクや手袋を着用する。
- ・マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。